

「評価結果の概要」

センターが把握している圏域の特徴

圏域人口：43,565

高齢者人口：14,810

高齢化率：34.0%

【歴史・地理】

庄内地区は豊中市の南の端に位置しており、北は名神高速道路、南は神崎川、西は旧猪名川、東は天竺川に囲まれた地域である。大阪都心からも近いため、昭和30年代に人口が急増、農地や低湿地が住宅密集地に急変した歴史があり、木造アパートや文化住宅が無秩序に建てられた。

【生活状況】

独居高齢者世帯の割合が高く、夫婦2人暮らし世帯の割合は低い。低家賃の住宅が多く、物価も比較的安いいため、低所得世帯が多く、現在の暮らしが苦しいと感じている高齢者が多い。戸建よりも賃貸住宅に暮らす高齢者の割合が高い。

【社会参加の状況】

親密な近所つきあいをする人の割合が高く、自治会介入率も他の地域より高いが、一方で、ボランティアやグループ活動への参加率は低い。

【介護予防への意識】

仕事をする高齢者の割合が高く、地域での交流を通じた介護予防を希望する高齢者は少ない。

【住環境】

最近では、古い集合住宅を解体して、戸建て住宅やマンションに建て替えるケースも徐々に増えてきたが、それでもまだ古い木造住宅が多く残っている。そのため、段差やトイレ・風呂などの住環境に関する困りごとが多い。「買物できる場所ない」「近くに病院がない」「交通の便が悪い」というような声も多い。

【介護者の状況】

子ども世代の介護者の割合が他の地域に比べて高く、介護者が抱えている介護での困りごとが他の地域と比べて多い。

*このような地域特性から、経済的困窮・認知症・精神疾患・子どものひきこもり、虐待といった課題が重複している相談ケースが多く、容易には解決できず、非常に時間がかかるケースが増えている。

センターの取組方針や特徴

【センターの運営方針】

- ・地域の高齢者からのあらゆる相談に真摯に向き合い、できるだけ現場に足を運び、一人一人に寄り添って、根気強く支援を行う。
- ・公平、公正、中立を遵守する。

【特に力を入れて活動している点】

- ・通いの場づくり支援事業について、保健師・看護師を中心に普及啓発活動を行い、他の職員も情報収集に協力した結果8ヶ所の立ち上げにつながった。
- ・「ほっとライン庄内」はH29年度末で虹ねっとワーキンググループとしては終了となったが、実行委員と相談し、有志による活動として継続することとした。年間2回の勉強会・意見交換会を実施し、参加者から高い評価を得ている。

【活動の中での課題やその解決策】

- ・認知症高齢者の増加により、認知症に関連した相談が増えている。
⇒オレンジチームとの連携、認知症サポーター養成講座の開催、地域ケア会議の実施
- ・8050問題に代表される、高齢者と同居する家族への支援
⇒社協CSW・SSCとの連携、くらし支援課・保健所・障害福祉課ひまわりとの連携
- ・校区ごとの地域課題の把握
⇒地域ケア個別会議の実施、なんでも相談や民生委員定例会・自治会総会への参加

総評

地域のスーパーマーケットで出張相談会を実施するなど、包括の周知とアウトリーチを重ねた取り組みを行っています。また、成年後見制度と高齢者虐待防止について、それぞれ独自のチラシを用いて普及啓発をしています。

記録については、困難ケースにおいて、3専門職で対応したことなど、より詳細な記載が望まれます。

好事例

管理者が職員に個別面談を実施して、研修計画を作成、職員は各職種の専門性に沿った研修に参加しています。

「庄内主任ケアマネの会」や「ケアマネカフェ」などの場を作り、圏域内の介護支援専門員同士が横のつながりを持てるような取り組みを行っています。